

(様式1)

### 自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>			
<b>1. 理念と共有</b>			
1	<p>地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	<p>生協の介護施設でもあり、「地域社会の一員である事を支える」という理念を掲げている。</p>	
2	<p>理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	<p>管理者と職員は事業所全体の理念を踏まえ、入居者が安心して穏やかに過ごせる様な暮らしの支援を目指している。理念はデスクマットの下や名札ケースに入れて確認し合うなど、ケアの基本とし日々の業務に具体化している。</p>	
3	<p>家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる</p>	<p>入居時や申し込み時にパンフレットを渡し、家族や地域の人々に説明している。又、グループホーム見学者にもパンフを配布し、理解してもらえる様、取り組んでいる。</p>	
<b>2. 地域との支えあい</b>			
4	<p>隣近所、地域とのつきあい及び地域貢献</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけあったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるよう努めている。事業所は地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。また、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。担当職員はキャラバンメイトになるなど、地域の認知症普及活動に参加している。</p>	<p>管理者や職員は、地域・組合員が気軽に立ち寄ってもらえる様、虹祭りや行事に参加要請している。又、年に1回は入居者、職員でスーパー、交番、学校、保育園他に挨拶回りに出掛け、交流している。近隣小学校からは、毎年ねぶた集会の行事に招待され参加している。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>			
5	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>毎年、評価受審の準備、実施、実施後の改善と、その過程の全てにグループホームの質の向上に関わる取り組みがある。評価の意義を十分に理解しているし、評価を活用し、具体的改善に取り組んでいる。</p>	
6	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>会議では毎回グループホームの運営やサービス、利用者の様子につき報告している。又、評価の報告も行い意見をもらっている。参加メンバーより、他グループホームの良い点や、家族より率直な要求も出される為、スタッフ会議に反映し、サービス向上に生かしている。</p>	
7	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、運営や現場の実情等を積極的に伝える機会を作り、考え方や運営の実態を共有しながら、直面している運営やサービスの課題解決に向けて協議し、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>会議終了後など、雑談的話し合いで現場の実情を伝えている。相談、協議する場面がある。グループホームから市に出掛けて行き相談する事実はない。</p>	
8	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<p>単身者や家族背景の弱い利用者には成年後見人制度を利用してもらっている。</p>	<p>任意後見制度利用者1名 後見人制度利用者1名</p>
9	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>高齢者虐待防止法についての研修会に参加している。報告書を確認したりして各自学習している。拘束はしておらず、日常的な虐待が見過ごされない様、注意している。毎月、拘束ゼロ推進委員会を開催し参加している。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 理念を実践するための体制</b>			
10	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>		
11	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>		運営推進会議へ利用者の参加を推進していく
12	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>		
13	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>		
14	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の見解や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>		
15	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>16 職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>運営者は、なじみのが最低限のダメージで済む様、利用者の退、入居のある時は職員は異動させない等、配慮している。</p>		
<p><b>5.人材の育成と支援</b></p>			
<p>17 職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>法人教育計画、事業所育成計画に基づき職員の採用時、フォローアップ時、それぞれの段階に応じた研修の機会を確保している。</p>		<p>今後も研修機会の確保とキャリアアップのチャレンジを動機付け、推進していく</p>
<p>18 同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>グループホーム協会の研修会に参加し、交流している。又、同業者との私的交流の機会の機会があり、運営の参考にしてている。</p>		<p>地域・他グループホームとの相互研修を計画していく</p>
<p>19 職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための良好な工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>会議やカンファレンスを多く持ち、ストレスや不安を溜めないようにしている。求められれば、いつでも面接を行い、ストレスの軽減を図っている。</p>		
<p>20</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>年1回は育成面接を行い、各自の目標や計画を明らかにしている。努力や実績を把握し、励ましている。各自に課題を与え、取り組みを通し、達成感を持たせる様にしている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>			
21	<p>初期に築く本人、家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人、家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>		
22	<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>		
23	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、職員や他の利用者、場の雰囲気は徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>			
24	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
25 本人を共に支えあう家族との関係  職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	入居者一人ひとりの状況を家族等へ密に連絡し、共に喜怒哀楽を分かち合い、一緒に本人を支えあう関係を築ける様努めている。		
26 本人と家族のよりよい関係に向けた支援  これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	認知症の発症で家族との関係が必ずしも良いということがない場合がある。職員は本人が安定して過ごされている事を家族に伝え、又、本人には家族が大事に思っている事を、納得出来る様、支援している。		
27 馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会や外出、外泊などを通じて、これまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れない様、支援に努めている。		
28 利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	気の合う利用者同士の関係を把握し、一緒に過ごす場を設けたり、テーブルの位置を決めている。入居者同士の支え合いを大事に思い、支援している。		
29 関係を断ち切らない取り組み  サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退居後も家族の訪問があり、元利用者の様子を伺うことがある。入院し死亡したケースには、時間経過後、弔問している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>			
<b>1. 一人ひとりの把握</b>			
30	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>本人、家族と話し合い、暮らし方の希望、意向を聞いている。又、表情、様子からも把握できる場合があるため、注意し観察している。</p>	
31	<p>これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>本人、家族、ケアマネージャー等から情報収集し、把握に努めている。</p>	
32	<p>暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている</p>	<p>毎朝のカンファレンス、バイタルチェック、経過記録、申し送り等からその人のリズムを把握し、一日の過ごし方を組み立てている。又、身体機能の低下など各人を総合的にみて把握している。</p>	
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>			
33	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>日々の関わり等から、利用者の要望を取り入れ介護計画書に反映させている。又、家族の面会が頻繁のため、面会時を利用し、意見等を聞いて介護計画書作成に反映させている。</p>	
34	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>介護計画の期間に応じて、必ず見直しを行っている。状態変化があった場合、その都度見直しを行う。見直しを行う際も必ず、家族、本人の意見等を取り入れている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>35</p> <p>個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>個別記録にわかりやすく記入するように努めている。個別記録の他にも、情報ノート、カンファレンスノートなども作成し情報を共有出来るようにしている。介護計画の見直しの際などにも参考にしている。</p>		
<p><b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b></p>			
<p>36</p> <p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>本人や家族の状況に応じての急な外出、外泊、家族の宿泊については体制整備を行い、支援している。</p>		
<p><b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b></p>			
<p>37</p> <p>地域資源との協働</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している</p>	<p>以前は物盗られ妄想のある方が交番に訴えに行き、対応してもらった。ボランティアの方の来所もあり、歌や紙芝居などの生活を豊かにする活動を支援してもらっている。</p>		<p>地域老人会や婦人会の協力を得ていきたい</p>
<p>38</p> <p>他のサービスの活用支援</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている</p>	<p>本人や家族の希望で、受診の際の介助や送迎のサービス利用の支援をしている。</p>		
<p>39</p> <p>地域包括支援センターとの協働</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している</p>	<p>現状ではないが、家族背景の弱い入居者もいる為、今後、地域包括支援センターとの協働が必要と考えている。</p>		<p>成年後見人制度を利用している入居者がおり、今年度中に学習会を行い、理解を深めたいと思う。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
40 かかりつけ医の受診支援  本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族等が希望している病院へ定期的に受診が出来るように支援している。又、希望にて主治医の変更を行った際も援助を行っている。適切な医療を受けられる様、往診の体制も整えている。		
41 認知症の専門医等の受診支援  専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	系列内に専門の医師がおり、定期的に受診、往診を行い、関係を築いている。受診、往診時には気軽に相談などしている。		
42 看護職との協働  利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	スタッフ内に看護職員を配置しており、健康管理や医療活用の支援を行なっている。又、看護職員の不在時には、他事業所の看護職員と気軽に相談できる体制になっている。		
43 早期退院に向けた医療機関との協働  利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	利用者が入院した際は、サマリーなど作成し、情報交換に努めている。又、早期退院に向けた話し合いなど、家族、医療機関と一緒に進んでいる。		
44 重度化や終末期に向けた方針の共有  重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	他ユニットで終末期の実践例があり、対象となる入居者の担当医の意見を踏まえ、職員、家族、他サービス事業所（訪問看護）等と繰り返し話し合いを行い、全員で方針を共有するということが出来た。		
45 重度化や終末期に向けたチームでの支援  重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	他ユニットで重度化や終末期の利用者がおり、かかりつけ医と相談している。その実践において、ホームのできる事、できない事を見極め、家族と連携し、支援している。終末期の支援については、振り返りを行い、今後の「終末期ケア」に活かしていく予定である。		重症化・終末期ケアに備えて学習し方針を共有できる様にしていく

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
46	<p>住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	<p>別の居所へ移り住みの際、事前に家族及び本人に関わるケア関係機関で十分な話し合いやサマリーを作成し、情報提供を行い住み替えによるダメージを防ぐことに努めている。</p>	
<p><b>・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b></p>			
<p><b>1. その人らしい暮らしの支援</b></p>			
<p>(1) 一人ひとりの尊重</p>			
47	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>利用者一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねるような言葉掛けや対応を行っていない。記録等も、所定の場所に保管し、プライバシーを損ねるような取り扱いはしていない。施設全体の学習会も行った。</p>	
48	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>本人の思いや希望を表せる状況づくりに努め、本人の返答能力に応じた説明方法を考慮し、納得しながら暮らせるように支援している。</p>	
49	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>職員側の決まりや都合で業務を進めていく態度ではなく、利用者一人ひとりのペースを保ち、暮らしていけるように支援している。</p>	
<p>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>			
50	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>利用者一人ひとりの希望に合わせて、理美容院の利用ができるように、家族と相談しながら、支援を行なっている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
51 食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、可能な場合は利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者一人ひとりの好みや能力に応じて、食事の準備、片付け、盛り付けなど一緒に行い、楽しめるように支援している。		
52 本人の嗜好の支援  本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	面会時に本人の好きな飲み物やおやつを持って来てもらっている。又、月に何度か本人の希望する物など確認し、買い物を行ったり、週1回のドライブの際にも買い物など行い支援している。		
53 気持ちよい排泄の支援  排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	一人ひとりの排泄状況を記録、カンファレンス等で把握し、できる限りおむつを使用しないで済むようにトイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行なっている。失敗の多い利用者については、個別のパターン表を作成し、パターンを把握し、事前誘導を行なう等の支援を行なっている。		
54 入浴を楽しむことができる支援  曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴の曜日を決めて入浴してもらっている。その日の状況等に応じて、くつろいだ入浴ができるように支援している。(時間帯、長さ)		
55 安眠や休息の支援  一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	利用者一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して休息がとれるように、1日の生活リズムづくりを通じた安眠策をとり、支援している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
56 役割、楽しみごと、気晴らしの支援  張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりの生活感や能力などを把握し、楽しみごとや出番を見出せるよう、場面づくり等の支援を行なっている。(テレビ鑑賞、音楽鑑賞、健康づくり、掃除、昼食作り、洗濯物たたみ、新聞取り、囲碁、将棋等)		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
57 お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者が自分でお金を持つことの大切さを職員が分かっており、日常の金銭管理を本人が行なえる様、利用者一人ひとりの希望や力量に応じて支援している。		
58 日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	週に1度のドライブの他、散歩や近隣への訪問等、入居者の心身の状況等に配慮し、臨機応変に対応、支援している。		
59 普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	利用者一人ひとりの希望をできる限り取り入れ、ボランティア、家族等の協力を得ながら、外出の支援を行っている。		本人・家族の思いを汲み「夢の実現」未実施者へ取り組みを進める。
60 電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族への電話を定期的に行っている入居者がおり、さりげなく支援を行っている。本人より電話の希望のある時は、取次ぎの援助を行い、直接会話できる様支援している。又、手紙についても、出し方、一緒に読むなど支援を行なっている。		
61 家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	家族や知人、友人等、本人の馴染みの人達が気軽に訪問でき、訪問時には居心地良く過ごせるような雰囲気を作っている。(訪問しやすい雰囲気、歓迎、関係再構築の支援、湯茶の自由利用、居室での宿泊体制整備等)		
(4)安心と安全を支える支援			
62 身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	運営者及び、全ての職員が、身体拘束について正しく認識し、身体拘束をしないケアを実践している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
63 鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	全ての職員が居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、入居者や家族等に心理的圧迫をもたせないよう、日中は玄関、居室に鍵をかけなくても済むようにしている。(外出の察知、外出傾向の把握等)		
64 利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	職員は本人のプライバシーに配慮しつつ、常に入居者を見守りやすい場所を考え、一人ひとりの位置と様子をさりげなく把握している。又、昼夜通して、センサーマットの使用、他職員(事務員、当直者)との連携もやっている。		
65 注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	毎朝のカンファレンス、職場会議等において、一人ひとりの状態において、検討し、危険を防ぐ取り組みをしている。		
66 事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	ホームの学習会等で知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。又、受傷の程度を問わず、事故報告書を作成し、毎朝のカンファレンスや職場会議で振り返りをし、再発防止策を講じている。		
67 急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	マニュアルを整備し、消防署の救命に関する講習を受講する他、ホーム内での学習会も行っている。		
68 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練を年2回行っており、日中と夜間どちらにも対応できる体制を整えている。又、グループホーム運営推進会議で防災について話題にし、地域の人々からの協力を得られる様、働きかけている。		第2回防災訓練に地域住民の参加を働きかける

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
69	<p>リスク対応に関する家族等との話し合い</p> <p>一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている</p>	職員はヒヤリハットやリスクのあった場合、その都度家族に報告し、今後、起こり得る事態につき相談し、対応等を話し合っている。手すりや、センサーマットを設置し、抑圧されずに生活できる方法を一緒に考えている。	
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
70	<p>体調変化の早期発見と対応</p> <p>一人ひとりの体調の変化や異常サインの発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている</p>	一人ひとりの体調の変化や異常サインを早期に発見できるように、全ての職員が注意しており、発見時には速やかに日勤リーダーや看護師、医療機関、家族等に情報を提供し対応に結び付けている。	
71	<p>服薬支援</p> <p>職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	薬の情報をファイルに綴じたり、一覧表を作成するなど、全職員が薬の内容を把握できる様に整備している。服薬時は、トロミを使用したり、一人ひとりに合わせた支援を行い、飲み終わるまで見守っている。服薬による状況変化は、ドクターや家族に報告している。	
72	<p>便秘の予防と対応</p> <p>職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる</p>	職員は便秘の原因や及ぼす影響を理解し、水分補給を促したり、散歩や軽スポーツを積極的に行っている。又、食物繊維の多い食材など摂ってもらえる様に献立の工夫も行っている。	
73	<p>口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている</p>	入居者の力を引き出しながら、口の中の汚れや臭いが生じない様、口腔の清潔を日常的に支援している。(歯磨き、入れ歯の手入れ、うがい等の支援、出血や炎症のチェック等)	
74	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	入居者一人ひとりの状態や能力、習慣、疾病の有無などに合わせて、量や栄養バランス、水分量の確保を支援している。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
75 感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症に対する予防や対応のマニュアルを作成し実践している。又、インフルエンザワクチン接種を職員、家族に励行している。		
76 食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	マニュアルを作成し、ホーム内の清潔や衛生を保持している。(食品、布巾、包丁、まな板、冷蔵庫、洗濯機等)		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b> (1)居心地のよい環境づくり			
77 安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	利用者や家族が入りやすく、安全、安心に出入りができる玄関まわりの工夫をしている。又、玄関、建物の周囲に家庭的な雰囲気づくりを配慮している。(花壇、畑作り、ベンチの設置など)		
78 居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者が居心地よく過ごせるように、テレビの音、照明の強度、陽射しの調整(カーテン等にて)など配慮している。又、廊下、ホール、各居室の表札へ季節ごとの作品など飾ったり、見やすく、馴染みやすい時計や暦を設置するなど工夫をしている。		
79 共用空間における居場所づくり 共用空間の中には、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファの設置やホームの奥には、ひなたもあり、利用者同士が談話し過ごせる場所がある。又、気の合う仲間の居室への訪問も行われている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
80	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>		
81	<p>換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている</p>		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
82	<p>身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>		
83	<p>わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している</p>		
84	<p>建物の活用</p> <p>建物を利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている</p>		

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

. サービスの成果に関する項目		
項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を 印で囲むこと)
85	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の 利用者の2/3くらいの 利用者の1/3くらいの ほとんど掴んでいない
86	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない
87	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
88	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
89	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
90	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
91	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
92	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と 家族の2/3くらいと 家族の1/3くらいと ほとんどできていない
93	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を 印で囲むこと)
94	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない
95	職員は、生き活きと働けている	ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない
96	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
97	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が 家族等の2/3くらいが 家族等の1/3くらいが ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

法人内に他科を有した病院・精神科病院があり、医療面での連携が可能である。また訪問看護ステーションの助言・協力もある。医療面での保障があり安心した生活が意と生活が営めちいる。

施設内の他サービスとの連携・協力が得られている。グループホーム内の行事だけでなく、他事業所のイベントにも招かれ生活を豊かにしている。

津軽保健生協のボランティア、地域のボランティアなど多方面よりボランティアの協力がある。

認知症の進行予防・身体機能低下予防のため、生活の中に「歩くこと」「学習すること」「笑うこと」を取り入れている。